

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

講座名	緑を楽しむ講座 柏 「日本各地の森を一日体験」		
開催日時	2022年11月27日(日) 10時30分~14時30分		
開催場所	茨城県つくば市 筑波実験植物園	一般参加者	31名

活動概要 世界中から集められた7000種の植物が植栽され、そのうちの約3000種類を観察できる「筑波実験植物園」を訪れました。今回はこの内から日本の森を構成している樹木を中心に観察し、日本の森の構成を決定づける環境要因、主として温度環境との関連を理解していただくことを主眼としました。

日本各地の森の概要と「各地の温度環境を数値で示す“暖かさ指数“」との関連を配付資料の説明で理解した後で植物園の観察に入ります。

観察は、東北地方から九州までの森を構成する暖温帯と冷温帯に属する森の樹木観察——常緑広葉樹（シイ、カシ、ツバキ類など）、暖温帯落葉広葉樹（コナラ・クヌギ、各種サクラ、ツツジ類など）、冷温帯落葉広葉樹林（ブナ・イヌブナ、ミズナラ、カツラ、カエデ類など）を主として実施しました。

まずは、日本の森とは余り関係ありませんが、戦後に中国奥地で発見されその後世界各地で植えられている落葉のヒノキの仲間メタセコイアと、世界で最も背が高くなる（115m!）スギの仲間常緑のセンペルセコイアとが交互に植えられているプロムナードから観察開始、黄～橙色に色づいたメタセコイアと濃緑色のセンペルセコイアが交わる様は一見の価値あります！



メタセコイア（橙色）とセンペルセコイア（緑）

その後、各樹林内を散策して様々な樹木の、それぞれの特徴を観察、「日本の森の多様性」を実感すると共に、この多様性を未来に存続させることの大切さを実感して終了しました。



常緑広葉樹林内の観察



イロハモミジの紅葉



イヌブナ 葉裏面



ブナ 葉表面

F I C 講師 稲岡 羽根 田中